
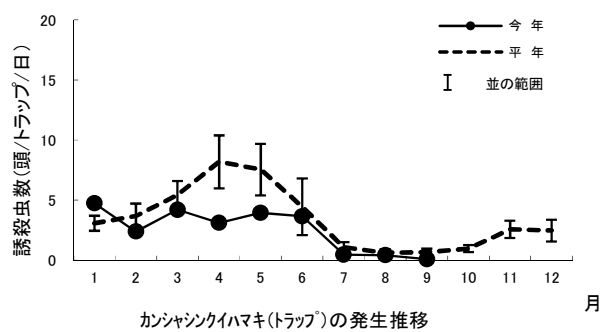
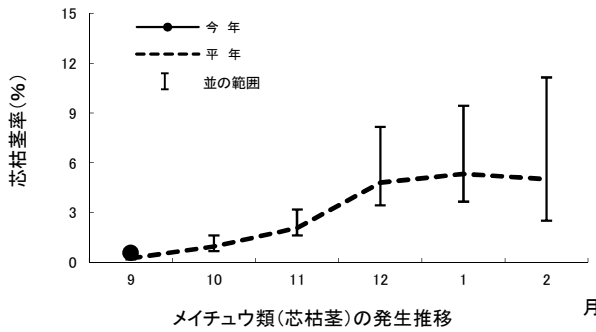


作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
9月の発生量 (現況)	やや少		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		

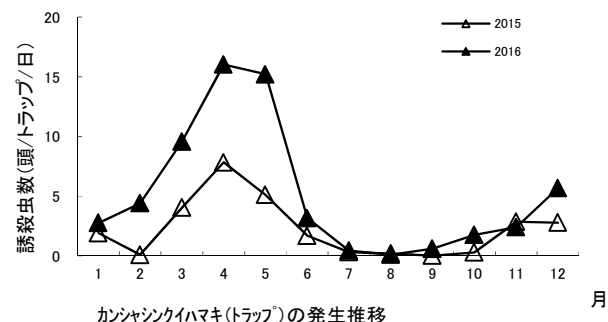
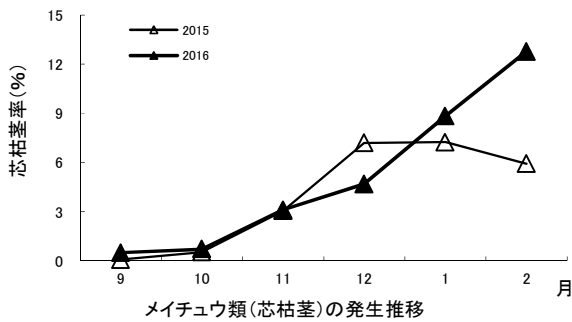
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 9月上旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は0.6% (前年0.5%、平年0.2%) と平年より多かった。但し芯枯茎切開調査の結果、確認された幼虫に本種は含まれなかった。
- ・ 9月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.1頭 (前年0.6頭、平年0.7頭) と平年よりやや少なかった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

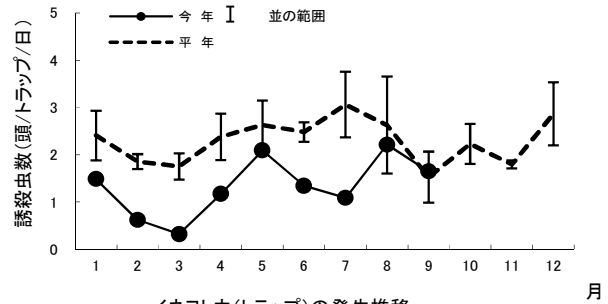
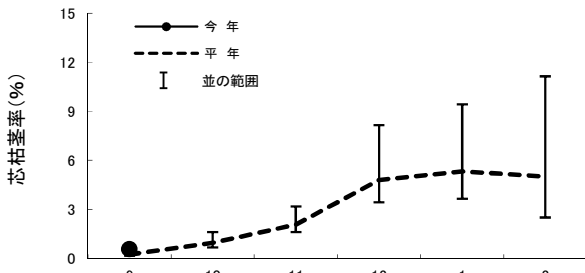
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)		
9月の発生量 (現況)	やや多		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		

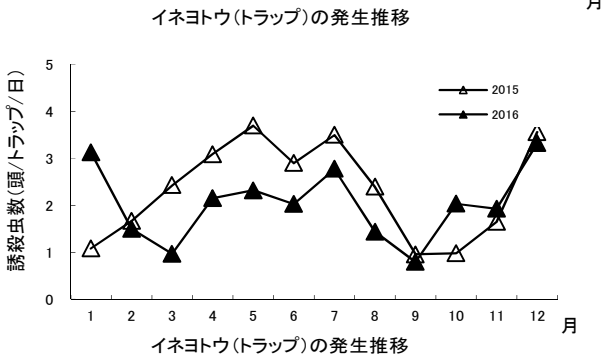
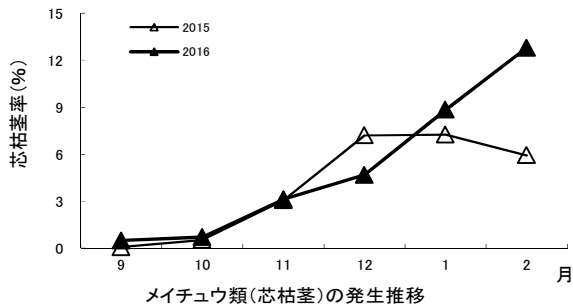
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 9月上旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は0.6% (前年0.5%、平年0.2%) と平年より多かった。また芯枯茎切開調査の結果、確認された幼虫は全てイネヨトウであった。
- ・ 9月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.7頭 (前年0.8頭、平年1.5頭) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)
メイチュウ類(芯枯茎)の発生推移



防除のポイント

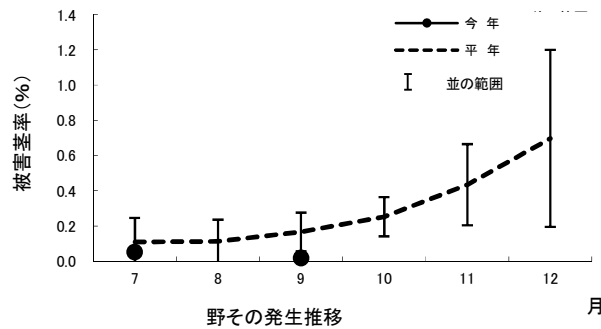
- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ 野そ		
9月の発生量（現況）	やや少		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	被害茎率の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		

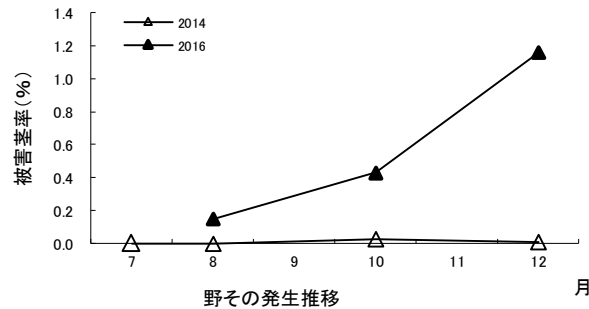
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月上旬の調査の結果、夏植ほ場における被害茎率は0.1%未満（前年調査なし、平年0.2%）と平年よりやや少なかった。
- ・ 防除員の報告によると、与那国島において野その被害が確認された。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ 管理されない耕地などで繁殖するので、ほ場周辺も含めて雑草防除等を行う。
- ・ 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。